



# 郡岳 こおりだけ | 826m 長崎県



野尻湖から見た郡岳

郡岳は長崎県の大村市にあり、多良山系に位置する山である。  
ここから尾根は遠目山、そして経ヶ岳へと続いており縦走も出来るのである。  
登山口は南登山口と西登山口とあり、野尻湖に車を置いて向かえば双方のルートも楽しめる。

## アクセス

長崎自動車道の大村 IC を降り、国道 34 号線に入る。  
国道を北に走らせ JR 松原駅前にある「野岳入口」交差点にて左折。  
県道 6 号を野尻湖（または大村湾カントリークラブ）に向けて  
上がっていくと野尻湖の駐車場に出会う。



## レポート

南登山口～郡岳～西登山口 (2014. 08. 31)  
野尻湖のキャンプ場管理棟前の駐車場に車を止めて郡岳に登る。  
ここからスタートして南登山口から山頂へ登り、西登山口へ下り  
駐車場に戻ってくる周回コースをとる。



**参考コースタイム** 野尻湖駐車場～35分～南登山口～1時間20分～郡岳～15分～坊岩～50分～西登山口～35分～駐車場 **参考歩行時間** 3時間35分



野尻湖のキャンプ場管理棟前の駐車場



南登山口

駐車場から県道 6 号を山手側に少し進んで Y 字路に出合い、右側のアスファルト道へと入り野尻湖畔沿いの道へ行く。分岐手前には前方に郡岳の山容が見えています。

野尻湖を右手に見ながら道を進み、萱瀬ダム分岐にて左折。案内に従い南登山口に向けて舗装路を上がっていきます。駐車場から南登山口まで 3km 弱ほど結構歩きました。

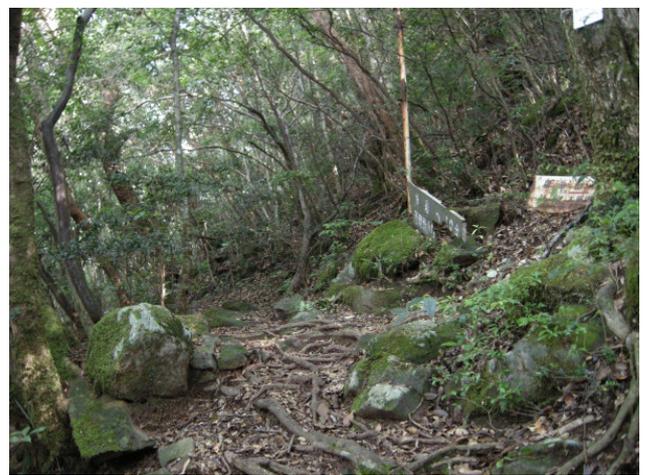
駐車場から約 30 分後にトイレが設置されている南登山口に出会う。

登山口から入ってすぐ急登になるが、そんなに長くは続かない。そのうち視界が明るくなったかと思うと高压線の鉄塔に出会う。この辺から暫く上りに難儀する。特別急斜面ではないのだが、道は粘土質のようで歩いて滑ります。周囲はヒノキの植林帯に代わるが、石や木の根っこがないところでは湿って濡れた粘土質の道が滑ります。この難儀な道は、向こう側の西登山口の手前で再び合うことになります。

やがて林道に出合い、鋭角に右折して林道終点まで道を進みます。



林道出合



坊岩分岐

林道終点からガレ道に出会うが、その道のほんの少しの間で後はよく整備された道を巻いたり、時にはジグザグに上がったりして山頂に向けて登っていきます。周囲はいつの間にか自然林が目立つようになってきました。登山道沿いには「あと 2km」の古い標識があり、幾ら進んでもまた同じような「あと 2km」の標識に出会い、どれが本当なのか混同してしまいそうだが、真新しい案内標が木に取り付けられてたので「これ」を信じて登った方が良さそうだ。この新しい標識は山頂まで幾つも取り付けられている。

このルートがほとんどが、上りやすい道で、途中には炭焼跡やベンチなどもあったが、周囲は同じような景色が続きやや飽きもくる。でも思い出した頃に少し荒れた道にも遭遇していた。

登山口から約 50 分（山溪の本には 1 時間）で坊岩分岐に出会う。

ここから左の道へ進むと山頂へは行かず、山腹を巻いて西登山口へ下るルートの途中にある坊岩へと向かうようだ。山頂へは右へ上がっていきます。

15 分ほどで稜線に出会う。郡岳から経ヶ岳までは尾根が続いており、ここはその尾根。遠目山を経て経ヶ岳まで縦走出来ます。郡岳山頂は左側目の前です。

登山口から 1 時間ちょっとで郡岳山頂に到着。標高 826m。



郡岳山頂



山頂からの展望

山頂は草が生い茂って、その中でちょこんと三角点とプレートが置かれていた。山頂からの展望は抜群です。眼下には大村湾が広く見渡せます。また大村湾から右側には独特な良い山容した虚空蔵山も見える。

下山は西登山口に向けて下っていく。山頂周囲は草が生い茂ってるので一瞬、ルートの入口が分からなかったが、南登山口から来た側と反対側のところに草に隠れて道があった。

西登山口へのルートは山頂から急な下りから始まる。すぐに露岩に出会い「ここが坊岩？」かと思ったがまだ先で、再び急斜面の下りに入る。上りの時に出合った「坊岩分岐」からの道との分岐に出会い、そのすぐ進んだところに「坊岩」がありました。岩に乗って望むここからの眺望もまた素晴らしい。先ほどの山頂からの展望と見え方はほぼ同じですが、大村湾や虚空蔵山がより近くに見えるような気がした。

坊岩から先の道が何処なのか迷う。道は坊岩手前の右側に道があるのだが、ここも草が生い茂って隠れて見えなかったのだ。目印は無かったと思う。



坊岩からの下り道



西登山口へ下る道

坊岩からは反時計廻りに巻くように道を下っていきます。グルッと巻き終えたあとは再び西登山口に向けて下っていく。傾斜が急なので上り同様ジグザグの道にも出会う。このルートも思ったほどは道は荒れてはなかった。所々、石がゴロゴロしているところはあったが、難なく下ることが出来た。

森林帯のやや暗い中から「パッ！」と視界が明るくなったかと思うと、高圧線の鉄塔に再び出会う。

南登山口からの上りで出合った鉄塔と同じ線で結ばれてます。雑草が生い茂ってるので掻き分けながら進む。再び植林帯の中へ入り暗くなる。開けたヒノキの植林帯の中では道を見失いそうになるが、それなりの踏み跡をたどって下ると再びちゃんとした登山道に戻った。



開けた植林帯の中



西登山口

視界も明るくなり周囲は草が生い茂る道となる。ここまで来たら登山口まではあと僅か。ヤブランも登山道沿いにいっぱい咲いてました。小さい橋も渡りあと僅かなのだが、ここで最後の難関、再び粘土質の道になる。滑ります。まるでアイスバーンの上を歩いてるみたいで歩きも慎重になる。結局、登山口まで粘土質の道は続き、県道沿いにある西登山口に出る。ここから 20~30 分ほど舗装道を歩いて駐車場に戻る。

